和田宿並びに羽田義久君(11 組)　　ーーウォーキング転じてドライブ小旅行ーー

布施修一郎(6 組)

11 月 21 日、地元、六五会のメンバーである小山田秀士(7 組)、小山壽一(2 組)、中村幸男(4 組)、布施修一郎(6 組)の四名が長和町町内を 1 日ぶらついてきました。当初は JR バスで長久保まで行き、和田宿をウォーキングする予定でしたが、このところ入退院を繰り返している小山君が歩行不調の為、車で周辺を見て回ることに変更。和田宿の見学の後、元六五会会員だった羽田義久君を訪ねることになりました。

最初に、和田宿に向かい和田宿本陣を見学。上田市内に住んでいるものにとっては、和田村を通ることはあっても和田宿そのものにまで足を伸ばすことがなく、その存在を知っている程度でしたが、その景観は海野宿や柳町に勝るとも劣らない場所であると認識しました。本陣は、あの和宮様が宿泊なさったところであり、数日に分けたとは言え総勢 8 万人の人々が和田に宿泊し、通過して行った事実は壮観なものであったに違いありません。本陣は、和宮様御一行が来られる半年前に周辺の宿ともども焼失しましたが、半年で再建築されたといいます。また、明治以降から数十年前まで、和田村の役場として使用されており、丸子町の役場にいた小山田君は出向してきたことがあると語っていました。周辺の宿の作りは、信州全般に見られる出桁作りが特徴的で、一番大きな宿だった「かわちや」は、歴史の道資料館として復元され見学できるようになっています。この宿場町が大変規模の大きかったことがわかり、もう少し地元の人々にも良く知られるべきと思った次第です。

その後、この 3 月まで長和町商工会長を務めていた羽田君の会社に行き、仕事の内容を聞きましたが、後期高齢者になりご長男がヘッドになった現在も、過去にこだわらず前向きで次の仕事への展望を熱く語ってくれた姿には、一同感動して勇気をもらい受けました。ちなみに彼の会社は胡桃を使って、殻を細かく砕いて研磨剤にする、中身はスナックに、皮は染色の材料にと、まさに SDGs の世界です。さらに、殻をいろんなことに活用しようと試みています。その胡桃ですが、上田小県地域は本場とは言え量が足りず輸入もしていますが、道路を挟んだ会社の向かい側にチャンドラーという根が長いアメリカ製の胡桃を沢山植えた「くるみ農園」を作り品種改良にも務めているとのこと。これからの会社の発展と社会貢献に期待が持てます。

一方、長和町財界人として顔が広く、いろんな文化があるその一片の場所に案内してくれました。「立岩和紙の里」ではお蕎麦をご馳走になったあと、250 人が紙漉きをできる施設が併設されており、修学旅行などで賑わっていること、私が以前に千曲川ワインバレーの投稿をした際に紹介したワインのシニアソムリエである森田美智子さん経営の森田屋さんには、同ワインバレーの中から選択された良いワインが沢山置いてあり、長和町に住む有名人、神山征二郎映画監督、姫木平に住む某超有名女性歌手夫婦、私たちが教わった矢島渚男先生

などが頻繁に訪れているようです。学者村という別荘地があることもありますし、他にも彼が我々に紹介したい文化的人物が何人もいるようですが、それは、またの機会にーーーー。

　この日は、六五会の月例会日でもあり、上田に帰った後はいつものように会飲食、話題はもっぱら病気、ご冥福を祈りながら最近逝去された保屋野良治さん、工藤良一さんに関してでした。

左から　布施、小山、中村、羽田、小山田

和宮内親王、和田宿宿泊時の規模を示す額

羽田君のくるみ農園

立岩和紙の里併設の紙漉き体験施設